

第2回 学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和7年7月9日（水）
- 2 場 所 御殿場特別支援学校 会議室
- 3 出席者 学校運営協議会委員

前小山教育長(CO)

トヨタ自動車(株)東富士研究所管理部

時之栖 社長室

(福)御殿場市社会福祉協議会 常務理事事務局長

御殿場市企画戦略部未来戦略監兼未来プロジェクト課長

富士見原区 福祉支部長

P T A代表

本校校長、副校長、教頭、事務長、各学部主事、教務課長、連携課長

生徒指導課長、生徒指導主事（一部）

高橋 正彦 様

細井 敏光 様

加藤 弘一郎 様

鎌野 晃 様

勝又 喜英 様

小山内 君子 様

伊藤 偉厚 様

計 17 名

4 議事録

(1) 校長あいさつ

4月当初に見ていただいた時よりも成長している子どもたちの様子を見ていただきながら、御意見をいただければと思う。この暑さの中、熱中症予防のため、プールが使えなかったり、グラウンドでの運動を避けたりと、様々な工夫をして過ごしている。本日は忌憚のない御意見をたくさんいただきたい。



(2) 協議①『いじめ防止基本計画について』

○生徒指導課長よりいじめ防止基本方針について説明（質疑については一部紹介）

・委員より、いじめの具体的な状況について質問。

（学校側）今年度は具体的な報告はないが、過去には高等部生徒のスマートフォン利用における LINE での不適切画像送信の事例があったことが説明された。知的障害のある生徒の場合、本人はふざけのつもりが、受けた側は辛い思いをすることがあり、対応の難しさもあるため、組織的に迅速に対応している。

・委員より、小中高でのいじめの継続性について質問。

（学校側）学部を超えたトラブルもほとんど見受けられない。

・委員より、早期の情報把握の重要性について質問があり、企業での対策（メールや電話相談窓口）に触れつつ、学校での情報把握方法について問われ、説明した。

○いじめには「継続的」「一方的」「集団的」の視点があるとし、学校がいじめの起かない雰囲気醸成し、早期発見、そしてもし起きた場合の適切な対応という大きな方針で取り組んでいることを確認し、計画の承認がされた。

～校内参観 及び 中学部生徒による

「校外学習の発表とお茶のおもてなし」～



(3) 協議②『学校と地域との協働体制～つながり～』

委員：体験型の教育活動が多いと感じました。体験型の活動を重視されているのか。

教頭：知的障害を持つ子どもたちにとって、一つ一つの事象がエピソードや出来事、そして自分がやったことと結びついて総合的に教えていくことが支援のあり方になる。学校では体験的な活動を多く設定している。

委員：学校でのボッチャ交流は、私たち自身も新鮮な気持ちだった。今年の冬にみくりやそばを作りたいと学校から打診があり、市に相談した。学校の方から『こんなことをやりたい、協力してくれないか』と提案をいただければ、人脈を駆使して調整する。それが生徒の記憶や思い出につながればよいと思う。

委員：今回の内容は、SDGs クラブにもつながると感じる。現在 200 くらいの企業や団体が入っている。うまくつながっていけることが多いと思う。

委員：社会福祉協議会ではボランティア連絡協議会も運営しており、何十ものボランティア団体が加盟している。もし学校の目指すところと重なる部分があれば、連携できればと思う。

司会：新しいアイデアが出たので、参考に子どもたちに問いかけながらやれるとよい。

委員：現在取り組んでいるブルーベリーロッジでの販売は、10 年くらい続いており、すごいことだと思う。お客様が買ってくださるから続いており、求められているということなので、今の形が良いのかもしれない。

委員：保護者の立場から非常に良い活動をさせていただいている。地域に行ってみる、地域の方に来ていただく、一緒にやるという活動は非常に良い刺激になっている。子どもたちの作品展示などは記憶に残る良いことだが、そういうやり取りを地域に発信することで、一方通行で終わらないようにその先を考えたい。受け手側へアピールして返事が来るような広報活動ができると良いと思う。

副校長：広報については、一方通行というよりは、展示することで子どもたちの作品のエネルギーが、それを見た人たちにパワーや気持ちを与えるという意味では一方通行ではないと思う。そこから『うちでも飾ってもらいたい』といった広がりが出てくるので、大事なことだと考えている。

委員：その広報をやることで、そういう人たちからのアクションや連絡を受け取れるような広報の仕方をされているのか。

司会：広報については今後も考えてみてほしい。全体を通して、地域の人に手伝ってもらって学校がありがたいのと同時に、地域の人間にしてみれば、学校の提案を手伝うことが実は地域の活性化につながる。忙しいと言いながらやった人は必ず前向きになり、やってよかったと感じる。うまく回っていくといいなと思う。

校長：今までも学校はいろいろなことをして投げかけ、学習の場を求めている。ふじはぐプロジェクトという形で計画の見直しをかけている。『ねらって・仕掛けて・評価する』というところの評価については、昨年からやり始め手探りのなことではあるが、QR コードを貼り、アンケートが取れるような形にしていければと思っている。フィードバックがいただける仕組みを簡単に作っていければと思っている。そのようなところから始めているので、是非御理解いただければと思う。協議会のメンバーの皆様には、御殿場在住の方が多いかと思うが、裾野に会社があるトヨタさんも入っていただいております、小山町と裾野で子どもの数は半々くらい。裾野の方にも出向かせていただき、今度、裾野市長さんや局長、福祉の方にもお越しいただき、学校のことを御理解いただくのも良いと思う。このように手をつないでいただけるように、こちらからも努力していければと思う。

(終了)